

小児等の脆弱性を考慮したリスク評価検討調査

146百万円(83百万円)

環境保健部環境安全課環境リスク評価室

1. 事業の概要

近年、子供に対する環境リスクが増大しているのではないかとの懸念があり、国際的にも子供の環境保健に関心が払われている。平成18年8月、「小児の環境保健に関する懇談会」において、我が国において取り組むべき小児環境リスク評価の対応策として、研究基盤の整備、小児環境保健に関する研究の推進等が提言されたところである。

今後、小児の発育に影響を与える環境要因の解明及び脆弱性を考慮したリスク評価、管理体制の構築に向けた疫学調査「出生コホート(追跡)調査」を実施することが急務であり、平成20年度より調査手法について検討し平成22年度より調査を開始する。次世代育成に係る健やかな環境の実現を目指して、これらの提言内容を実行し、適正な環境リスク評価・管理のための取組を推進する。

2. 事業計画(平成15年度～)

研究基盤の整備(研究拠点群の形成、人材養成、科学的知見の収集及び国際的研究動向の把握)

重点プロジェクト研究の推進

小児の環境有害物に対するばく露評価手法の開発

小児の感受性要因に着目した健康影響評価手法の開発

小児を取り巻く環境と健康との関連性における疫学調査

20年度～ 疫学調査の調査手法の検討(フィージビリティ調査)

22年度～ 疫学調査「出生コホート(追跡)調査」開始

小児のばく露評価、バイオマーカー開発及び試料バンクの確立

小児環境保健に関連する福祉施策の研究(人文科学研究)

小児環境保健のリスクコミュニケーションに関する実践的研究

3. 施策の効果

小児特有のばく露や脆弱性に着目した化学物質等の環境リスク評価の推進

適切な環境リスク評価に基づく環境リスク管理の実施

次世代育成に係る健やかな環境の実現

4. 備考

諸謝金・委員等旅費 1,365千円

(内訳) リスク評価検討会開催経費

調査費 144,856千円

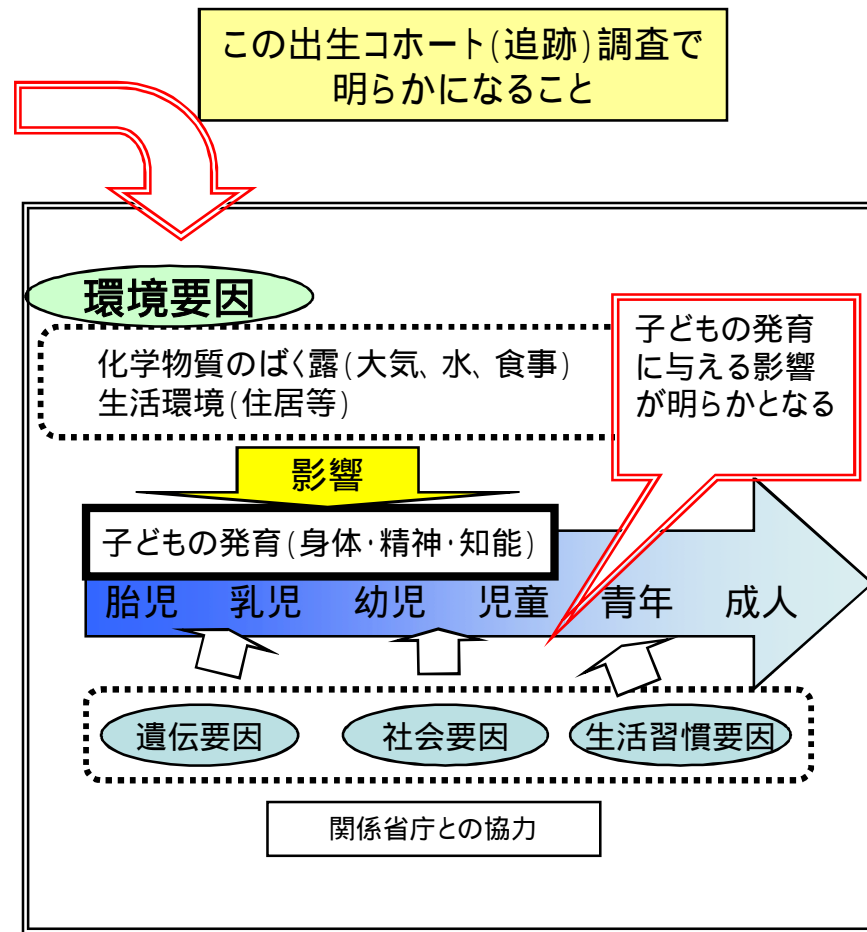
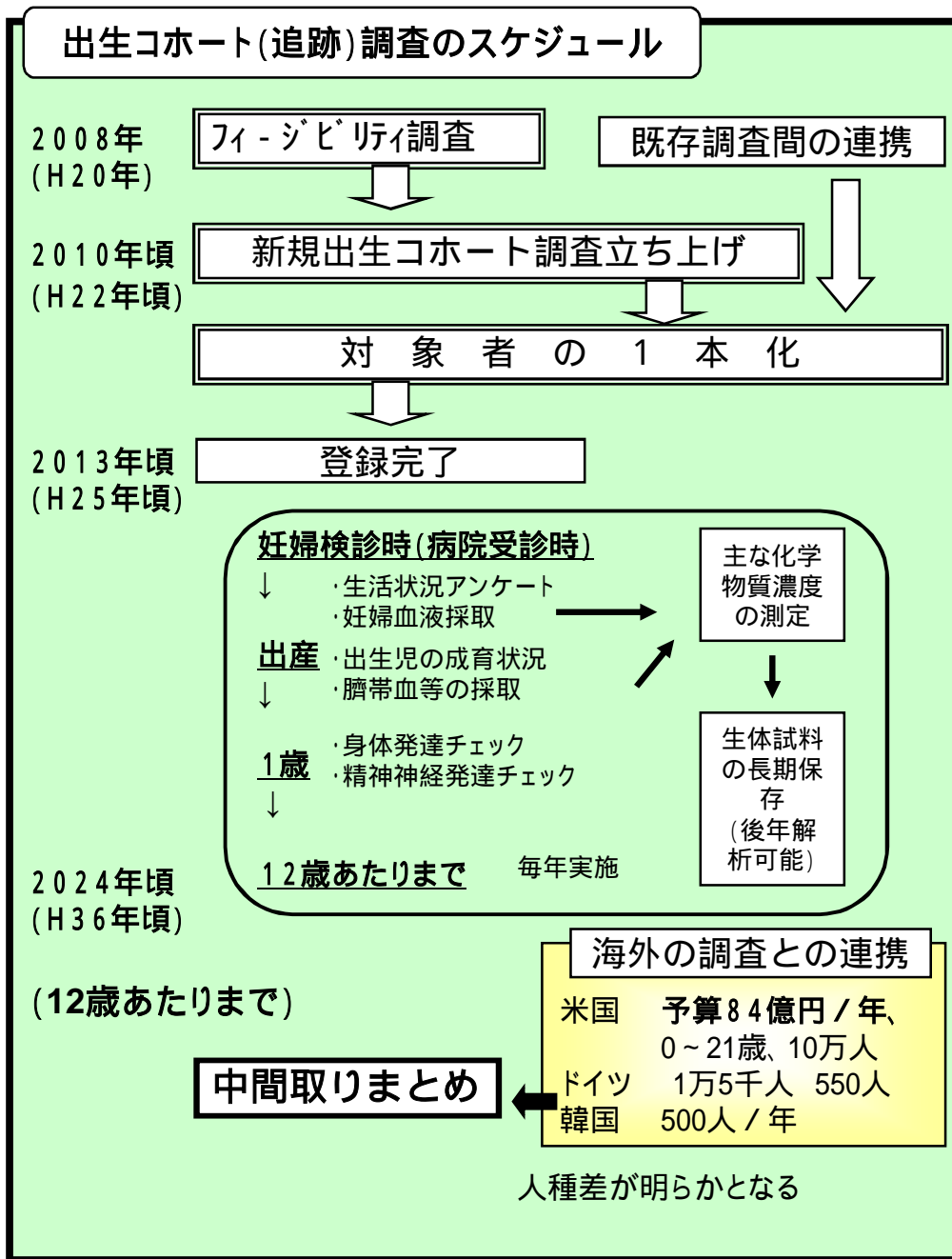
(内訳)

シンポジウム開催経費 5,009千円

環境と健康との関連性における疫学調査等 135,747千円

福祉施策・リスクコミュニケーションに関する研究 4,100千円

小児環境保健に関する疫学調査の概要



< 解明が期待される事項(例) >

母体内、臍帯内の化学物質濃度

発育に影響を及ぼす化学物質、生活環境要因の同定(POPS等)